

1 自己評価

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701760		
法人名	社会福祉法人 倫尚会		
事業所名	グループホーム倫尚園	ユニット名	Bユニット
所在地	福岡県北九州市八幡西区馬場山東3丁目11番1号		
自己評価作成日	平成26年1月27日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年2月11日	評価結果確定日	平成26年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム倫尚園は、福智山をバックに大自然の空気の良い環境の中で、高齢者複合施設の1階に位置しています。2階には特別養護老人ホーム、3,4階が養護老人ホームとなっており、交流を深める為のコミュニティーホールがあり施設全体の行事や地域の方々とのふれあい、介護予防事業の場として活用しています。グループホームでは食堂、談話コーナー、和室など一人ひとりを尊重し、くつろいでいただける空間の他、広々として庭園では四季折々の山々を眺めながら車椅子でも気軽に散歩や野菜づくり、気候の良い時期にはおやつ、バーベキュー等野外での活動に工夫をこらし、利用者の「暮らしの場」として潤いと豊かさ、プライバシーに配慮した家庭的な生活環境を提供しています。職員は「認知症」に対する理解を深める為、職員間での勉強会、市の認知症講習に参加し、知識や技術向上を目指し、スタッフとの連携を保ちながら利用者が安心安全な暮らしができるようサービスの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目に付きやすい場所に掲示し、管理者、職員は理念を共有し、常に意識し実践に向け取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	複合施設として自治会にに入りており地域の行事や催し等に参加、施設の行事等で地域の方々とふれ合う機会を作って交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、施設の行事や見学での来園者に対し、認知症への理解、支援方法等を伝え、広報誌等にも支援を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の活動の取り組み、困難事例等報告し、参加委員より助言、意見を取り入れ、サービスの向上に活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人として介護予防事業を市より委託を受けている。又、区内のグループホーム連絡会に参加し、地域、行政との関係づくりに取り組んでいきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について事業所内で共通の認識を持ち、拘束しないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人、事業所内の研修、虐待防止委員会等で虐待について取り上げ、話し合いを行い見過ごす事のない様に注意を払っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人、事業所、市の研修等に参加し、家族より相談を受けた時に対応できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書面に沿って充分納得される様に説明し質疑をしている。 苦情に関する申し立てフローチャートに沿って説明、納得いかない時には介護保険課、国保連に申し立てできることも説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、積極的にコミュニケーションを図り、家族等により意見要望を傾聴し、意見等を頂いた場合は職員間で話し合う等、迅速な対応を行い、運営に反映させている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新年度に全職員に対し、運営方針を説明し、運営に関して大きな変更等がある場合は、意見を聞き改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として共済会、労使協議会等で話し合いで決定。職員が働きやすい環境、条件の整備、リフレッシュ休暇を取り入れ勤労意欲向上に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用については法人事務局で行っているが、現場の意見も取り入れている。勤務については要望に応じ、働きやすい様に配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内研修、推進プロジェクト等に参加、情報伝達により、学ぶ機会を設けている。又、勉強会、啓発資料にて話し合う様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、ホーム内で研修計画にて実施、外部の研修にもできる限り参加している。ホーム内で勉強会を行い、意見交換を行っている。又、経験が少ない職員には適宜指導している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉関係の職員と交流を行い、意見交換をし、研鑽に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点で本人が困っている事、不安を感じていること等を傾聴し、安心して生活ができる関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時点で家族との困り事、不安感をしっかり聴きとり、信頼が深まる様に築ける様に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時から本人・家族と面談を行い、又、担当ケアマネージャーや医療機関からも情報提供を受け、カンファレンスを行い、良いサービスができる様に心がけている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす関わりの中で本人の個性、役割を見だし生活を楽しんでもらっている。利用者からは、会話の中から学ぶことも多々あり、暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族が共に支え合える場を支援している。職員は口頭での情報をその都度提供し、家族の絆を支援している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場を把握し、関係が途切れないように施設内で自由に面会できたり、思い出の場所に行ったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格、相性の違いを把握し、孤立する事のない様にうまく交流が行える様に支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に住み替えたり、入院で退去になった場合も職員が面会や見舞いに行ったりし、必要に応じ相談ができることを家族に伝え、関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人との関わりの中で、生活歴を把握し、フェイスシート等にその人の希望、意向を見つけ本人本位に検討するように努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者には本人の思いをくみ取り、生活歴、サービス利用歴の把握により馴染みの品等持ち込んで頂き、家族の情報を得て、安心した生活ができる様に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握、心身の状態の観察を行い、残された機能が発揮できる様に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を第一に、主治医、介護者の意見等も反映させながら、利用者本位、自立に向けた介護計画を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援記録、介護・活動チェック、サービス計画チェック、BD等に日常異常のある利用者の個別記録表を作成し、申し送り簿等により職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設としての特色を活かし、集団検診、合同によるショッピング、四季に応じた外出支援等可能な限り、本人、家族の要望に対応している。又、施設内に常勤の看護師の協力を得てのサービスに取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	複合施設としての利点を活かし校区内の小学校・幼稚園との交流、地区住民のボランティア、地区の春、秋の祭の氏神様へのお参りや市民センターでのお祭り等に参加し、地域の資源を暮らし豊かにできる様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の希望を確認、家族同伴受診時には情報を提供。主治医の指示は個別に記録。皮膚科、歯科、眼科、内科等の定期往診時の情報を提供し、適切に治療が受けられるように支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	複合施設内に看護師が常勤しており、いつでも相談、対応を依頼できる様に体制が整っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、職員は頻回に面会し家族及び主治医等との情報交換を密に行い、早期退院ができるよう連携を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では終末ケアの方針は無いが、重度化や家族の希望等があり、今後は在宅医療、施設内医療の協力、活用により可能な限りホームでの生活ができる様に取り組んでいる。又、終末期のあり方については施設内で取り組んでいる。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署の職員によりのAEDの使い方の指導等、実践講義を受け、事業所内でも定期的に実践、訓練を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設として、定期的に昼夜を想定した避難訓練を実施している。又、運営推進会議で地域の方に呼びかけし、協力を得ることができている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の入職時にはプライバシーの確保についての説明、接遇マニュアル法人内での研修勉強会等に於いても意識付けを行っており、利用者の人格を尊重し言葉かけには配慮している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者と接しながら、本人の思い、希望をくみ取り、自己決定ができる様働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	複合施設全体で行われている健康体操、リハビリ体操の時間は決められているが、それ以外は2階に本を借りに行ったり等、その人その人の状況や生活リズムに合わせた支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴日(週3回)には衣類を選んでいただき、自己決定ができない方はその人らしさを大切にしたいおしゃれを支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の積極的な希望もあり役割を持って、職員と共に盛りつけや配茶等手伝っている。3時のおやつは手作りをしたりと食の楽しみの支援を行っている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	複合施設として、調理は厨房で栄養士によりカロリー計算し管理している。キザミ、ミキサー、減塩、糖尿病食等一人ひとりの状態に応じ提供。水分チェックを作成し、目標を定めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食後、声掛け、誘導することできている。自分できない方については付添い支援を行っている。義歯は夕食後に外し、週に2回ポリドントで洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツや紙パンツをできる限り使わないようにし、布パンツ、尿パットを利用し排尿チェック表にて尿間隔を把握。本人の表情等の観察を行い、声掛けし、トイレでの排泄ができる様に取り組んでいる。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりととり、散歩や運動、腹部マッサージ等を行い、便秘対策に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は24時間入れる温度に設定し、朝一番に希望される方、自発的な入浴はないが声かけを行い気が合う方同士、入浴を好まない方にもできる限り工夫をし個々に沿った支援をしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を高めるように施設内外の散歩、趣味への活動の支援を行い、夜間は安眠できるよう又個々に応じて昼寝も取り入れている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している処方箋を薬と一緒にケースに入れ、目的、副作用等を把握できるようにしている。異変等があれば対応できるように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は各自刺激、楽しみ事(縫物、草取り、花の手入れ、写生、他施設利用者との交流、カラオケ等)を把握し個々の趣味等を発揮していただいているよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調に配慮し園内外の散歩は、日常的に支援している。地域へのショッピング、レストランでの茶話会、地域の祭り、文化祭の参加、誕生日月のサービスでは個々の希望を支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な方は所持されてショッピング、売店、等で支払いしていただいている。その他の方々はその場で手渡しして払っていただけるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの電話の取り次ぎ、かける時の支援、携帯電話を持たれている利用者には電源切れのない様に支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アットホームな雰囲気作りを心掛けている。季節に応じた飾り、行事等の写真を掲示し、歩行時等に見ていただき、その時を思い出していただけるようにしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチ、談話室、座敷、食堂等でその時の状況に応じて、一人で過ごしたり、気心の合った利用者同士で心地よく過ごせる環境作りを工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具、仏壇、絵画、テーブル等又、好みの飾り物等を持ち込んでいただき、住み慣れた環境に近づけ居心地よく過ごしていただけるよう工夫をこらしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室では自分で起立ができる様に安全バーを設置し、居室には表札をつけ分かりやすく、トイレは大きな字で便所と表示し、混乱を防ぐなど工夫している。		